

第3回 三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業 ワーキンググループ会議（議事録）

【日 時】 令和5年2月3日(金)19:00~21:00

【場 所】 役場第2会議室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

1 開会(村上企画課長)

失礼いたします。本日、所用で遅れてこられる委員さんもいらっしゃいますけれども、定刻になりましたので、ただいまから、第3回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業ワーキンググループ会議を開会いたします。お手元にお配りの資料、次第に沿って進めて参りたいと思います。よろしくお祈いします。それでは開会の挨拶及び以降の進行を、本ワーキンググループの座長を務めます、青木地域振興監からご説明申し上げるとともに、進行をお願いしたいと思います。

2 座長あいさつ

はい。どうもご苦労様でございます。前回は年末のクリスマス前ということで、大変な時期にお集まりをいただいたわけですが、今回も週末ということで、なかなか出にくいところお集まりをいただきましてありがとうございます。雪はちょっと落ち着いて、雨も降ったりしてちょっと減った感じがございますけれども、この冬は少し皆さんもおそらく油断をされていて、朝はドキッとされたのではないかなというふうに思っております。私も1人で50mほど雪かきをしないと出れないものですから、危機管理もできておらず役場にも出られず、1日雪かきをしておりまして、大変情けない思いをしたところでございます。

さて本日は3回目のワーキングということでございます。健康部会、温泉部会両方の皆さんに一堂にお集まりをいただきました。年末の両部会の議事録を、全員の皆さんにお届けをしておると思っておりますけれども、私も目を通しながら、多くの視点で皆さんがお話をいただいております。こういった記録っていうのは、もちろん今回の事業にも役立ちますけれどもいろんな面で、しっかり読み込んでいけば、これからもいろんなところで生かせるものだなというふうに感じて、綴って大事にしたところでございますけれども、本日は、皆さんからいただいた前回のお話をもとに、基本構想となるものの、素案原案をお示ししておるところでございます。これについてお話を伺って参ります。事務局でいただいたお話を可能な限り表現をしたいと思って整理をしておるところでございますけれども、いかがだったでしょうか。方向性を三つの柱ということで整理をして、構成をいたしております。温泉を学び、知ることを通じて、温泉を生かした健康づくりへの扉を開こうとするということで、温泉との結びつきにより、健康づくりに取り組むための仕組みを作っていくとするもの。そして、入浴を柱とする、予防に繋がる活動の施設場づくりということで三つの柱を示しておるところでございます。

この後、担当事務局の岩本係長の方から、それぞれの柱についてご説明申し上げまして、その後に、皆さんからのご意見を伺っていく予定にしております。本日もどうぞよろしくお祈いいたします。なお冒頭にも申し上げましたが、我々事務局は、皆さんのご意見を一生懸命受け取る気持ちでおりますので、些細なこと、小さいことでも結構ですし、建設的なご意見、ご指摘がいただければと思っております。限られた時間の中での発言となろうかと思いますが、進行にご協力をいただきながら、有意義な会議にしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお祈いをいたします。それでは、座って失礼をいたします。3番の報告事項ということで、温泉を活用した健康まちづくり事業基本構想について資料1から4ということで、事務局の岩本から説明をいたします。

3 説明

事務局	失礼いたします。本日はお集まりいただきありがとうございます。私の方から
-----	-------------------------------------

は、報告事項といたしまして、温泉を活用した健康まちづくり事業、基本構想について、資料は1から4まで用意をさせていただいております。それぞれについて説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。座って説明をさせていただきます。

まずは私の方からは、簡単ではありますが、少し総論的な話があってから、各論に踏み込むような、そういった形で説明をさせていただきたいと思っております。資料について、まず1をご覧くださいと思います。資料1温泉を活用した健康まちづくり事業、基本構想の案ということでございます。こちら、めくっていただきましたら、はじめにというところからスタートをしております、第1章から、第3章までの構成で作ろうと考えております。目次をつけております、そちらの方で、全体をざっと俯瞰していただけるのかなと思っております。そのまま、目次の方をご覧くださいまして、第1章でございますが、背景ということで整理をしております。第1回のワーキング会議での話を元に、役場、或いは関係機関が所有しておりますデータ等からこれを作っていくと思っております。今時点では、まだ根拠だとかそういったところが乏しい箇所もございますので、全体を進めていく上で、適宜見直しをしていき、最終的にはカチッとしたものを作り上げていこうと考えております。

続いて第2章となりますが、今日、皆さんからまさに意見をいただこうと思っておりますのが、この第2章の部分でございます。すでに一昨日になりますけれども、事前資料ということでお配りをさせていただいておりますのも、ここの部分となります。若干ではございますが、お配りをしたところから、表現が変わっているところもございまして、大きく意図だとか、そういったところについては変えてははいないつもりでございますので、こちらについてまた後程、いろんなご意見をいただきたいと思います。

最後、第3章ということですが、こちらについては、今までのこのワーキンググループの会議だとか、或いはデータだとか、そういったものを参考資料として掲載するようなことを考えております。以上が、基本構想の全体の構成でございます。

続いて、この資料1の10ページの方をご覧くださいませでしょうか。まず町の全体目標について、現時点でこの健康長寿のまちづくりというふうに表しております。続いてこの事業の目標ということで、今までの話でもありましたが、予防を総合的に進める仕組みを作るということで、整理をしております。そして、今までの背景だとかを踏まえて、整理させていただきました。事業の方向性ということで、丸の1から丸の3までをまとめております。これら、3本の柱ということで、進めていこうかなというぐあいに思っております。この3本の柱について柱についてざっとイメージ的にちょっと見やすい形で作ったのが資料の2の方でございますこちらの方をご覧くださいませでしょうか。先ほど申しましたように、こちら、事業のこの基本構想の肝となるのは、こちら事業の方向性、温泉を活用した健康まちづくり事業をどういう形で進めていこうかと、そういったところになるろうかと思っております。そのために、ワーキンググループを通じまして、皆様からご意見を伺ってきたという経過がございます。方向性につきまして、我々、事務局の方としましては、町の最上位の計画であります総合計画、或いは計画を実現させるための地方創生のプランだとかを念頭に置きまして、意見や、すでに走っています事業とかとの兼ね合いを整理しまして、こういったつくりさせていただいております。それぞれ一つずつご説明いたします。

1つ目は、『“三朝温泉”を知ることによる、温泉活用への動機をつくる』でございます。こちらについては、主に温泉部会の委員さんからいただいたご意見のうち、やっぱり町民さん自体も、音声の知識について、どこまでご存知なのかというようなことをいろいろご意見としていただきました。まずは知るといったことが大事になるというような話もございましたので、こういった形で柱立てをさせていただいたものです。知ることによりまして、三朝温泉に、もっと親しみが持てる、或いは温泉に行こうと思う。そしてそれらが繋がって、誇りに繋がっていくと、そういった流れをイメージしたものでございます。

2つ目です。『温泉と健康づくりを連携させる』です。これは冠にしております温泉

と健康の事業と同じような名称となっておりますが、病気にならない、介護にならない、健康のままにいるというようなことを考えた際に、健康であることを、三朝温泉が繋いでいくということで考えたものです。例えばストレッチだとかヨガだとか、そういったものから、或いは散歩だとか、ウォーキング、簡単な負担の軽いものからハードなものまで、一言に運動といっても、多様にあると思いますが、例えば運動をしたら温泉に浸かれるとか、温泉に浸かったら運動するとか、そういったような流れができたかなということでも表したものです。

3つ目、『入浴等施設を整備する』ですが、今まで言ってきました、温泉を使って何がしたいかということ、進めていこうとした際に、新しい施設があってはどうかということ、ここに書かせていただいています。新たな施設があって、多様な動きに繋がっていくことが、健康づくりということはもちろんですが、観光面でも、最終的なプラスになるということも、想定ができるかなということを思っております。そういった好循環が生まれる拠点というようなことをイメージしております。入浴だけではないプラスアルファ、健康づくりだとか、交流そういったことができるようなことで、「等」というものをあえて入れております。それではそれぞれの柱ごとで個別にこういった取り組みをしていったらどうかということについて、続いて説明をさせていただきます。お手数ですが、資料1の方に戻っていただきますでしょうか。

資料1は11ページでございます。ここからが個別なところでございますが、まず、この3つの柱の考え方について先ほど少し簡単にですが、説明したことを少し細かく記載しています。その下に具体的な取り組み例として、一つ一つを書いております。この柱立ての中では、こういったことができるだろうということでも書いたものがございます。委員の皆さんからいただいたご意見については、ここにエッセンスとして多く注入させていただいたということで、作成にあたりましては、大変感謝をしております。まず、ミュージアム機能整備ということでございます。知ることっていうのもっと身近にということで、そういった拠点を作ってはどうかと思い、ここで一つ例として挙げたものです。今の技術を活用すればオンラインということも可能なかなということではありますが、そういった身近に知ることができる拠点があってはどうかということで、記載したものです。

次に学ぶ機会の創出です。これはあらゆる場面を活用して、温泉を学ぼうということです。例として、三朝温泉読本ということを作ってはどうかというようなご意見も、事務局の中でありまして、そういったいろいろな場を使ったり、或いはソフト的な何か整備をするとかいうことでも、そういった機会を作って、まずは知っていただくということになります。続いて、ラジムリエの応援、こちらは、知識と作法、そういったことの、いわばエキスパートであられるラジムリエの制度について、もしかしたら無理はあるのかもしれませんが、極端な話として、そういったラジムリエさんが多くなっていくということが一つの好循環に繋がるのかなということでもここに書かせていただきました。その他、報告会ですとか、今ちょっと言葉として出していますが、ワーケーション環境の整備、小中学校への出前授業、利用料の補助といったことを、こちらの方では書かしておいていただいています。最後に重要業績評価指標ということで書いておりますが、事業、単に走らせるではなくて、一つ個別の目標を掲げながらそれに向かうということの方が、今はいいのかなということで、参考までにこちら書いたものがございます。

次に、ページを進めていただきまして13ページ、『温泉と健康づくりを連携させる』でございます。こちらについて、具体的な取り組みでございますが、まずは、こちらに書いています「湯道」の作法構築ということで書いています。「湯道」という映画が、2月に全国で上映されるというようなこともありまして、三朝温泉の入浴、三朝温泉が他に例を見ない、非常に有名な泉質を持つというようなこともあると、オリジナルの入り方だとかそういったことをどんどん普及していくということもできるのかなということで考えました。

続いて、トレーニング機能の整備ということでございますが、こちら、マシントレ

ーニングに始まりまして、今近くでもフィットネスクラブだとか、ジムだとかいろいろ展開されております。比較的若い層の方が使われるのかなというふうにちょっと見てはおりますけれども、例えば、そういった若い方が、まずは自分の体重管理だとか、或いは美容だとか、そういったところの視点で、トレーニングを積むとか、運動するというようなことを続けていけば、おのずと自分自身の健康への意識醸成、そういったことにもなるのかなというところでこちら書いています。

続いて、運動と温泉、健康づくりと温泉の循環です。こちら、例えばですが専門のトレーナーの方がいて、健康づくりの活動を率先していただくか、指導するというようなことができれば、自分だけでなく、そういう専門的な人がいるということで、よりよい循環に繋がるのでないかなということをイメージしてこちら例として挙げました。

最後に、アプリの開発ということで書いています。これは一言で言いますとデジタルのところに、もっともっと活用しようという意図でございまして、今は人口がやっぱり減っていくという時代に突入しております。不足しているところは、デジタルが補うということが、今はスタンダードになりつつありますので、ここではアプリ開発ということを入れてはいますが、そういった流れにも向かっていきたいなというふうに考えております。

最後に15ページでございまして、『入浴等施設を整備する』でございまして。ここは、お風呂と何か、お風呂プラス何かを整備するというところでございまして、三朝温泉のよさが、一番いい形で生かせるようなものを作っていきたいなということでございまして。望めば誰でもが入れると、そういった施設を作り上げていくということが、理想だなという具合に考えています。一方で、何か新たにハードを整備することになりましたら、当然予算だとか、立地、或いはお風呂ということがあると、湯量だとかいろいろなことが、関係してくるのかなというふうに思います。もちろん理想とする施設を目指すということで、いろいろ機能は盛り込みたいなということは考えるんですが、現実問題、そうできないところもあるのかなと。なので、今あるものは活用しながら、相互補完の仕組み、こういったことも組み込みながら、そういった実現可能かどうかというところをこれからの課題の中で整理しあいながら、お互いがお互いを補うような、そういった施設と施設、事業と事業の繋ぎ合いということができれば、良い形になりはしないかなということで考えました。最後に食との連携ということで、こちらの健康部門の方でいただいた意見としてあったものです。食あつての健康ということもありましたので、ここは引っつけてはどうかということで、書かさせていただきました。以上簡単ですが、方向性ということで、資料の1と2でございまして。

続けて、資料の3ですが、前回のワーキンググループの会議で委員皆様からいただいたご意見について、こういったことで対応させていただきましたということの表です。メインは、先ほど整理した、説明させていただきました方向性における取り組み例の記載ということで、含めさせていただきました。思っておられることと少し違ふとかいうことももしかしたらあるかもしれませんが、この後の意見交換で、いろいろとご意見をいただければ、また再度整理をし直そうと考えています。中にはその事業全体を今後進めていく上で、もっと検討を要するというものもございまして。それについては、そういうふうな記載をしています。あくまで私どもとしてこういった整理をさせていただきましたということで見てもらえればなと思います。こちら個別の中身に入りますと、ものすごく時間がかかってしまいますので、後程でも見ていただきたいなと思います。最後、資料の4でございまして、前回のワーキングが終わった後に書面でご意見をいただいたものでございまして。こういったご意見をいただいたということで共有させていただきます。ここにはちょっと記載ができなかったんですけども、昨日ですけれども、岡崎委員の方からも、資料の提供ということをお願いしております。ちょっとこの中には書ききれなかったんですけどもそういったこともありましたので、この場で共有をさせていただき、4人の方からご意見をいただきました。長くなってしまいましたが、私からの説明としては以上でございまして、座長の方にお返しをいたします。

4 意見交換

<p>青木座長</p>	<p>それでは早速、意見交換ということで皆様からのご意見等を伺って参りたいと思います。前回もそうでしたけれども、どんな意見でも結構ですし、新しい提案とか、そういったものも含めて一通りまわしていきたいというふうに思っておるところでございます。前回一通り、お話をいただいておりますので、そういうこととかぶってくるという部分もあろうかと思いますが、あまり気にせずに行きたいと思っております。それで、基本的に3つの方向性を示しておりますので、ここでお話をされる場合にこの3点についてもうちょっとという部分がある場合はそしてお話を伺いたいと思っておりますので、進め方として一通りこの3つの枠組みをまず肯定してちょっと説明させていただきたいと思っております。</p> <p>それではまず、そうですね。資料2と資料1の11ページ・12ページを開いていただきながら、この『“三朝温泉”を知ることによる温泉活用への動機をつくる』ということで、示しているものについてお話を進めていきたいというふうに思っております。それではいつもお願いしますということで、では、右からいきたいと思っております。糸原さんから、よろしくお願いします。</p>
<p>糸原委員</p>	<p>全般に具体的に示されてきてですね、これから叩いていろんなことが進んでいけるようになったかなというふうに思っています。知るっていうところ、動機づけってというのがすごく必要なかなあと考えています。あとは人がどうやって集まる場所を作っていくのか、実際に温泉街に来て、人が集まれる場所であったり、そこでまた知っているようなことを、次に繋がる場所っていうこと、物がこういった形で作られたり、発信できる場所、発信できる人の育成っていうところは、有意義なのではないかなというふうに思っています。</p>
<p>山根委員</p>	<p>この「知る」というところで、この書面の中にも情報発信強化ということで、ここにはラドン濃度のSNS発信等って書いてありますが、僕はあまり得意な方ではありませんが、SNSとかで、いわゆる俗に言う「映える」といいますかそういうような、何かこう、県外からでもパッと見た瞬間に虜になるような、象徴というか、なんかそういうものもあるときっかけはそういうところだったとしても、そこで行ってみたいなとか、そこで何かやってみたいなというようなことがきっかけで入ってきて、そこが深く入っていければ観光の面とか、その知ってもらうという面では、必要な要素ではないのかなというところで感じています。たまたま、この前テレビで昼間のなんかこう情報番組見ている時に、何県か忘れちゃったけど、温泉施設で、そこは、中のいろんな浴衣ってのが、着るものとか、その使っている家具みたいなもの全部ビームスとか何かこう、コラボしてやっていて、若い人たちがどんどん来ているっていうすごい話をやっていますので、何かそういう目玉みたいなものがあると、お金はかかると思いますが、いいのかなと思いつつながら、ここに関しては感じていました。</p>
<p>松田委員</p>	<p>ミュージアム機能の整備、その中でデジタル技術の活用というところがございまして、いわゆる動画配信サイトYouTube、例えば最近ですと、子供が将来なりたい職業にそれが入ってきたりということがありますし、そういった動画配信される方の中ではなくて人々の注目を集めるためにインパクトのある、このアクションをやってということもあるんですが、私よく聞くのが歴史だったり、科学技術だったり自然科学だったり、既存の情報整理された情報を音声作成ソフトやキャラクターの画像を使って、割と淡々とそれを20分程度の動画を何本も作って、すでに整理されている情報を、動画としてあげている方もおられます。そういうのを音声だけで聞いているだけでも、何か物を知ったような気分にもなれて、でもやっぱり知識に繋がるということもなくはないと思っておりますので、そういった意味ではすでにあるその温泉についての科学的なこととか歴史的なことを淡々と伝えるような、そういうことも、デジタル技術というところでは、実現できるのではないかなというふうに思いました。</p>
<p>牧田委員</p>	<p>こちらを読ませていただいて、「ミュージアム」という言葉にとっても惹かれました。やっぱり若い人の視点からいくと、やっぱりどこかに行くっていうところ、その言葉</p>

	<p>があるだけで、行ってみようかっていう形になるので、よく、ここに温泉に来たんだけど、「ホテルに入るまでにちょっと時間があるんだよね」というような声をよく聞くので、こういったものがあれば、外から入ってきた人もすごく充実して、利用していただけるし、また、ラジムリエ資格取得というところで、町内からもやはり学びと参加ができるという点ではとてもいいなと思いました。</p>
田村委員	<p>湯治宿をやり始めて8年になりますが、この間も話したかもしれませんが、杖を忘れて帰ったお客さんが、2人あります。奥さんに抱えられて来られた人が1人でちゃんと歩けるようになって帰った人も何人かいらっしゃいます。そういったものも映像で、ちゃんと取っておけばよかったなって、帰られるようになってから冗談で言うんですけど、なかなかそういうのも取りづらいような状況の中でおいでになって、実際に本当に温泉街にある「杖なし地藏」の逸話をそのまま実際に目で見ると、きちっとそういうものを取っておけばこういうとこで本当に見ると、やらせじゃなくて、誰が何を言うよりも効果が見えるというか、そういうものを感じていますので、科学的な検証プラスそういったものをちゃんと記録しながらアピールしていけば、ただの無色透明の温泉じゃないよってということが分かるんじゃないかなという気がします。</p>
米田委員	<p>こんばんは。私は、資料のように意見書の方は書かせていただいておりますので、そちらの方を見ていただければと思うんですが、皆さんがおっしゃる通り、言われているように集まって遊べる場所とかコミュニティスペースっていうのがないっていうのが多分あると思うのと、あと旅館で働いていると「食事を食べる場所ってどこかありますか」というようなことがよく聞かれるんですけども、なかなかその案内をできる場所という食事どころっていうのがないのでそういったところが何ヶ所かあればいいのかなというふうに思います。</p>
山内委員	<p>一番の知るといふことによる温泉活用への動機を作るってことに関しては、いろいろなことが盛り込まれていますので言うことはないのかなとは思いますが、一つ、温泉はいいよねと言っても、三朝温泉はいろんなことに効果があっているような活用の仕方があるので、それをどういうふうに簡単にずっと継続して伝えるかっていう、町民の方に刷り込んでいくかっていうことをしっかりビジョンを立てて取り組めばいいかなと思いますんで、今見た感じでは、すごくちゃんといろいろ考えられているなっていうことを感じました。</p>
岡崎委員	<p>温泉を知る、活用するのがちょっとよくわかんないんですけど。自分が温泉を扱ってきた中では、よく問い合わせがあるのは「がんに効くかどうか」という問い合わせが一番多い。ホルミシスとかああいう性質に対しての問い合わせはあんまり。そういう人たちにとってはそういう泉質が地元でいうぐらいのそういう、好奇心は全然なくて、何の効能がありますか？とかはあんまりなくて、向こうが言われるのは「こういうことに使いたい」と、向こうの提案の方が多くて、「温泉をこういうことに使いたい」と。いろいろまとめていますが、その辺が何ていうかな、地元の人、住民、町民そのものが、温泉を身近に感じてないと思うんで、やっぱり温泉施設、銭湯がもっとあって、もうちょっと風情を作る取り組みが必要だと思います。だから、極端に言えば各部落に銭湯ぐらい作っても、そんな難しい問題でもないし、やるかやらんかの問題で、それぐらいですね、あとやっぱり住民が参加しないことには。ただ、どうのこうの言うよりは、やっぱり肌で感じてもらって、そういうことを行える施設をつくる、例えばスーパー銭湯なんかつくれば、もう簡単なもので、その辺をちょっともう実行するっていうところまでいけばいいと思っています。</p>
御船委員	<p>基本的にですね、温泉を活用した健康まちづくり事業というのが、まず一番元の、誰のための何のための事業ですかっていうところをよく考える必要があると思いました。ずっとこう、今まで進めてきた中で、私もしゃべっていて、あんまりきちんと消化しきれなくてしゃべっているんですね。ですから、まず一番の元に、まず、町民のために温泉を活用した健康づくり事業なんですかって、三朝温泉を活性するか、するための事業なんですかっていうと、うまくそこを利用しましょうってことはわかるんですけど、一番の元のテーマが、ポイントがどこなのかっていうのをきちんと掘</p>

	<p>んでいかないと、中途半端なものになると思います。ですから、いろんな多様な意見が出てくるのはいいことなんですけど、意見が多角化するっていうのはそこにあると思っています。ですから何を答えていくか、最終的にはよくわからんですけど、どういう温泉を生かして、どういう健康づくり、健康的な町にしたい、そのためには、持続可能なためには、ある程度、事業として、収入も利用してかつ利益を上げながら継続していけるようなことをしていくんだとかっていうふうに勝手に思ってるんですけど、その辺のところをきちんと最初の一歩の元、整理する必要があるなということと、僕はよく知っていただくことが一番の元ですよ、知ることによってまた興味が深まって、どんどん深掘りなっていくよってことをいつもどの場所でも言うんですけど、アントニー君が最初にもう、前にも言ってきましたけど、本当にニーズがあるんですかというところがあるんで、その辺のマッチングですよ。そこをしっかりとらえていかないと、やりましたけど効果がないということになるんで、同じやるんだったら、この町の三朝のいい形の特色を生かして、町民にとっても事業者にとってもウインウインになるような、進め方をしていただきたいなというふうに思っています。</p> <p>だから、今すぐに何かやろうと思ったら、赤ちゃんのおむつかぶれってこと言いましたけど、すぐにでもできることです。でも、いろんな整備をしていかないとできないこともいっぱいあります。もう環境的にはドイツのバーデンバーデンのミニ版で似てますし、三朝町とも交流のバドガシュタインっていうところもすごいところですし、参考になるまちづくり、健康のまち、温泉を用いたまちづくりというのはもう先進事例があるんで、参考されたらと思うんですけど、今、高付加価値化事業というのが全国で進んでいて、地域としてこういう取り組みを始めてるところもありますんで、そういう意味では三朝ってのは、今までも、現代湯治ってのやってきてますから、先行してやってるっていうこともあって、うちは何も無いわけじゃないんで。うまくそこはやってきてることもいいこともあるんで、さらにブラッシュアップしていただければなというふうに思ってます。</p>
<p>アントニー委員</p>	<p>前回の繰り返しになると思いますが、御船さんが、さっき言ったように、前回ね、「知ってもらいたい」というのは、向こう側に「知ろうとする人」がいないと、なかなかマッチできないと思うので、今までの知ってもらいたいという考えで、いろいろね、資料を作ったりだとか、いろいろ事例があると思うんですけども、向こうは「知ろうとしない人」だったら、あまり効果がないので、どうやって知りたいと思ってもらえるように、何かを考えなきゃいけないかなと思うんですけど、うまくマッチできたらいいなと思いますけど。あまりまとまったこと言えなかったけど、知ろうとなってもらえが大事かなと思ってます。</p>
<p>藤井課長</p>	<p>アントニーの流れを汲むわけではないんですけども、この中で情報の発信の強化というようなくだりもありましたが、一方的に情報の発信をしないことが大事なのかなということも思いました。アントニーの言葉を借りると知らせたいことと、それから人が知りたいことに差があると、全く見ていただけない情報になってしまうと、なので、知りたいことは何なのかと、知識のほかに、例えば自らのメリットになることとか、知ること自体は多分自分で学ぶだけでは限界があるので、その部分をこの情報発信で補うのが一番良いのかなと。最初①の三朝温泉を知ることによる温泉活動への動機を作る、というのをもう少し僕なりに噛み砕くと、三朝温泉を知ることによって、温泉が健康に好影響を及ぼすことを学び、自らの健康に、その温泉の利用を取り込む動機を作るということかなと具合に思うので、ちょっと温泉活用の動機を作るといったら、わかりづらい部分もあるのかなという具合に、皆さんのご意見を聞いて思ったところです。</p>
<p>青木座長</p>	<p>御船委員にご指摘をいただきまして感謝しております。今回、基本は町民のためと、町民がターゲットというのが大きな基本だとは思ってます。それがあって次があるというふうに思ってますが、アントニー委員が言ってくれましたけれども、ニーズとマッチング、「知ってもらいたい」とこと、「知りたい」とことの組み合わせ。そうい</p>

	<p>ったことが非常に観光でやる場合と、町民や生活者に対してやる場合は手法が違うのかなというふうにも思います。つい最近、こないだも小学生の旅館での研修といいですか、ああいうことが出てきましたけれども、いろんなことがコロコロしてるような気がします。温泉と子供との出会いもそうですし、高齢者の方に、ちょっと調子が悪いけど、温泉入ったらっていう機会があれば、それも一つのつなぎだというふうに思いますので、この趣旨というのは皆さんご理解をいただけたというふうに思っておりますが、いろんなことを考えることによって温泉をもっと身近なものへ入浴の環境も整えるというような視点で進めて参りたいと思っておりますのでございます。</p> <p>このことについて、何かもう少し追加でこれは言っておきたいとかというようなことがありましたら、伺いたいと思いますが、よろしいですか。</p> <p>それではめくっていただきまして、次へいってみたいと思います。13、14ページです。『温泉と健康づくりを連携させる』ということで、この部分につきましては、健康部会でもいろんな環境の想定がはっきりしないなかでしたからターゲットの話もありましたし、どうするのってぼやっとしたところもかなりあったもんですから、なかなかちょっとというところで、ワーキングの時にも、横広がりな話になったかなというふうには思っております。少し事務局の方で整理をする中でポイントを押さえたつもりでございますけれども、委員の方の言われたことがうまく解決になってるかというところ少し自信のないところもございます。とりあえず出た弾が、すぐに全部がものになるわけでもございませんし、一つずつやりながら、始めていくというスタイルで作ったと思っております。ここについてお話をいただきたいと思っております。ではまた糸原さんからお願いします。</p>
<p>糸原委員</p>	<p>以前、病院も関わってスポーツジムの事業というのをちょっと動かしかけたことがあるんですが、やっぱり今フレイルにしても、それ以前の我々の年代にしても、健康に対するものっていうのは強いと思います。ただ温泉だけよりも、こういった、ここでできることがあってプラス温泉があると、人は来られるのかな、或いは地元の方が使われるのかなあと。今コンビニフィットネスとかっていうことでいろいろなとこにできるようになりましたが、休みの日にわざわざ遠くまで行かなくても、地元でできて、プラス温泉、それがついてくると、外からでも、例えばフィットネスよりも料金が安くて温泉がついてるとかっていう形のプラスにはなるのかなというふうに思います。アプリに関しては、今いろいろとできているところですが、これがどれぐらい町民の方に普及して、プラスこれが合ってこられるようになるかなっていうところと、どれぐらいあるのかなあとと思いますが、実際、健康に関してはですね運動してっていうところは、ある一定の効果は出るのかなというふうに思っています。</p>
<p>山根委員</p>	<p>ターゲットはやっぱり基本住民です、ということだったと思いますが、そうすると例えば観光客の方だとかそういうところを相手にするのであれば既存のホテルさんとか旅館さんとかいっぱいあって、それぞれが独自のいろんなアピールをしながら、温泉の良さをされてると思いますので、それはもうそこでいいと思うんですけど、三朝町さんが行政としてやっぱ関わっていくとなると、やはり町民の健康のところを重視ということで進めていくと思っております。そうやってきて子供から、本当に年配の要介護の方までっていうところになってきて、どこをターゲットかって全部だと思ってしまうんですけども、そういうような何かをするときに、集まれる場所には多分いろいろ、役場の中でも子供支援課があったりとか赤ちゃんを担当してる部署もあったり成人の方それから高齢者の方いろいろあると思います。これが、一つのとこに集まっていて、例えば先おむつのかぶれの話もありましたけど、赤ちゃんの集いをするときには、それを温泉を使って、お母さんはリラックスしてもらおうし、子供さんはお尻のかぶれ解消になるし、お年寄りには社協さんとかが集まってる場所、そこで集まって、体操して温泉が入れてっていうところでまた温泉を知るといようなそこに町民が集まってくる仕掛けをやっていけたら、いいんじゃないかなと漠然と思っております。</p>
<p>松田委員</p>	<p>この項目につきまして、町民が利用してということになった時には、やはり施設の構造であったり、その中の機械等の設備、ハードウェアの部分、それと記載があり</p>

	<p>ます、アプリ或いは指導される方のマンパワーといったようなソフトウェアの部分ってところが、有効に活用されればということであると思います。</p> <p>町民さんの健康づくりっていうと今でも地域で集まる社協の方でも、関わらせていただいております。地域での高齢者の方のサロンですとか、ラドン体操で集まられてやったりってところで、そういった感じで、決まった日に決まった時間を使って、健康づくりをしていくってところだと思うんですけども、逆に言えばそういったものを、温泉がなくてもできるわけなので、温泉を使ってこそってところが本当に重要だし、そうなってくるとハードウェア、悪い言い方をしますとハコモノという部分で、いかに有効なものが築けるのかなというふうに思ったりします。</p> <p>それと、このことを考えて一度事務局さんの方にもお問い合わせをさせていただいたことはあるんですが、これが住民ではなくて、遠方から来られる方の湯治って言った時に、やはり長期滞在をされて、温泉とかオンドルとか使ってそのままゆっくりリラックス過ごす期間を過ごされるってところが、温泉を使っての健康づくりだろうなと思ったときに、時々、三朝温泉街を通過して、例えばキャンピングカーでしばらく滞在しておられる方がおられたりすると、やっぱりそういった皆さんって、逆にその自分のお住まいのところではどういった生活しておられるのか、ものすごいお金持ちの人が、三朝温泉で長期滞在されるのか、それとも体を壊して仕事できなくなったけど、もう一度社会に復帰するために、可能な限りお金集めて、いろいろ湯治宿で自炊等もしながら過ごされるのかということ考えたことがあります。そこの部分、湯治って言った時にいわゆる私が先ほど業務の中でいうこのサロンのようなものもそうなんですけど、湯治っていうところの兼ね合いといいますか、やっぱりただの健康づくりって言った時に、今ひとつか私のイメージの中でかみ合わない部分がちょっと引っかかってるっていうのが、一つありますので、ちょっとそこの個人的なところですけども。</p>
<p>牧田委員</p>	<p>こちらについては、町民の方に対してということであるので、湯道という言葉も今日初めて聞かせてもらったんですけども、御船さんが言われたように、おむつかぶれのお話や、田村さんのがんの方が、歩けない方が歩けるようになって帰っていった、ていうところで、町民と温泉をつなげるってところで考えると、一つずつ町民の方、温泉に関わっておられる方から、丁寧に聞き取りをして、どんなことが効果があったよっていうことを町民挙げてしていくのが必要なんじゃないかなっていうふうに私は思いました。</p> <p>私の知らないそういった温泉の効果もたくさんあるでしょうし、私が一つ話せることと言えば、保育園のころから行き渋りが多くって、今、もう27、28になりますけど、全く企業で働いたことがない、学校も高校もやっと卒業できたっていうような子なんですけれども、温泉場の方でお風呂場洗いを始めさせてもらったんですけども、急に元気になったんです。活動的になって、すごい優しい子ですけど、すごく体温が上がるっていうんですかね、物事をまっすぐ見てとれるような子に、もともとそうなんですけど、精神的にも安定して、穏やかな子になったんですよ。そういったことを経験しておられる方って温泉場の方たくさんあると思います。肌が綺麗になったとか、健康になったってことはあると思いますけど、そういったことの吸い上げを一つずつ丁寧にされていく、それを発信していくってところが必要なんじゃないかなっていうふうに思いました。</p>
<p>田村委員</p>	<p>岡大の先生の本だったと思うんですけど、ラドン温泉でホルミシス効果によって、骨折の骨のつきが飛躍的に上がったとか、そういった何か研究成果もあったようで、実際うちにこられた方でもずっと何ヶ月も骨がつかない関節の骨折で骨がつかなかった人が、1週間ぐらいの湯治で帰って、検査したら「ついてます」って言われましたって、すごい喜んで電話してこられたことありましたが、実際にそう本に書いてあることがあるんだなっていうふうに思ったりするものですから、温泉病院さんの方でずっとそういった治療もプールを使ったようにしてやられてると思うんですけども、そういったものをもうちょっと前面に出してというか、もっと全国的に発信すれ</p>

	<p>ば、プロ野球選手だったり、プロのスポーツ選手なんかの体を壊した人達がたくさんいるわけですから、アマチュアにしても。そういった人たちに向けてでも温泉の効果っていうのをPRしていけるんじゃないか、それはイコール町民にとっても、腰痛めたら、やっぱり入りに行かんといけんっていうふうな意識づけにもなっていくんだと思いますし、そういったものに、もう少し取り組んで、大々的に取り組んでいけたらいいのにな、というふうに思ってます。</p>
<p>米田委員</p>	<p>具体的な取り組みの例というところに、週間体操ラドンっていうのが書いてある記載があるんですけど、父親が、今日もなんですけども、バランスボールの体操教室をスポーツセンターですかね、やられてたと思うんですが、それに参加をしてるんですけど、父親が今、腰の狭窄症でちょっと腰痛めて足にしびれがある、手術しても直らないような状況なんですけども、そういう腰が悪い方だと、このマシントレーニングだったり、陸での運動っていうのは腰に余計に負担がかかってしまって悪くなってしまうので、例えばその温泉とかプールとかを作っただけでそういうところでリハビリとかそういった運動ができたしたら筋力とかそういう体力とかも維持ができるのかなというふうに思って今見ております</p>
<p>山内委員</p>	<p>この2の項目を見て感じたことは、健康って何だろうって思うんです。体が悪くなって直すこと、直して元気になることが健康なのか。けがをして治って動けるようになることが健康なのか。本当に健康ってどういうことだろうかっていうことをまず考えないといけないような気がします。</p> <p>それを踏まえてこれを見ると、ストレッチとかヨガとか書いてありますけども、体がある程度動く人がやるんですよ。トレーニングもサーキットトレーニングとか書いてありますけど、ある程度動ける人がやるんですよ。体が衰えないようにということでもやるトレーニングですよ。リハビリにも動ける、普段動いていた人がけがとか何かがあって、使えなくなった部分を強化してやるということだと思うんですけども。僕普段やっぱり全然仕事もできるし、走れます。運動もできます。ただ、やっぱり仕事をずっとやり続けていると、腰が痛くなったり、肩が痛くなったり、首回りが痛くなったり、その時その時でやっぱり痛みは出ます。動けるんだけど、痛みがあって苦痛です。そういう人って結構多いと思うんです。パソコンに向かって、手首周りが痛いとか、それって何って、突き詰めていくと、やっぱり体の骨のゆがみだったり、そういった部分から神経を圧迫して痛みとか苦痛が生じるっていうことがあるんだよっていうことを知りました。ということは、衰えないようにトレーニングするっていうことも大事だけど、普段から体を正常なというか、整えるっていう意識を持ってやらないといけないのかなと。そのために、トレーニングのために、温泉を活用するっていうことも大事ですけど、やっぱりその普段体を整えるために、温泉を活用して、細胞刺激しながら、そういう体のゆがみとかそういったところを整える。っていう意識で、また考えるとまた視点が変わってくるのかなと思います。体のことだけじゃなくて、やっぱりメンタル、精神的な部分もすごく関わってくると思うんです。温泉に入ってちょっとフワッとすることで、少し神経っていうか、張り詰めた気持ちが緩和されるとということもあるでしょうし、いろんな方面から視点を持って考えた方がいいのかなと。ここだけ見ると、健康って何なのかなっていうことをすごく感じるんです。ちょっとよく、もっと考えられた方がいいかなっていうのは、正直感じました。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>健康ってやっぱり、各個人の町民なら診断して研究して予防して健康体力、体力の増強ってのがもう基本だと思うんですけど、それに温泉をどうやって絡めていくか。僕個人がそういう委員会って、20年前ぐらいに2年間かけて三朝は温泉を利用して何が一番ベストかなっていう答えを出したことがあるんですけど、それは温泉を使った医科学的な治療をメンタルからフィジカルとか、一番よかったのは、その時に根拠としたのがストロングポイントっていうのが、ラドン温泉。それから、以前は病院が2つあった。温泉病院と岡大。それともう一つ大きいのが宿泊、その時は4,000人ぐらい泊まることのできた。それを全部かみ合わせた中で一番よかったのが温泉を使っただけのトレーニング。一番効果があるのは、リハビリ・けが、厚生指導とか、メンタル</p>

	<p>からフィジカル両方に使えるのが温泉でした。</p> <p>その根拠を知りたくて日本のトップの愛知県のスポーツ医科学研究所っていうのに視察行かしてもらって、そこにはいろんな全国からリハビリが来てて、整形外科の先生もいて、宿泊施設もあって、そこに足りなかったのが温泉療養が足りないということで、プールがあるんですけど冷たいプール、やっぱりそこでも話したんですけど、温泉が効果があると。三朝にとっては、もっとこだわって、温泉治療をしたら、三朝町にいけば早く治るとか、町民が健康になれるとか、1人ずつのカルテをまず診断して町民の1人ずつのカルテを作ったり、温泉病院、僕個人として温泉病院がもっとPRして欲しいんですよね。そのリハビリに特化すると、温泉病院は日本でも有数なリハビリのトップ企業だっていうのを、そういうのが一番興味を、全国的には興味を呼ぶところなんです。それと温泉で問題なのは最近言われてるのは、温泉をどういうふうに保護するか、守るかっていう以前に、集中管理して新しい源泉を掘ろうという案が、30年前ぐらいかな。それで地熱でどこにいい源泉があるかっていうのは、もう調べてデータはあるんですけど、まずそれもしなければいけないし、それから温泉を何に使ったら有効利用があって、健康に結びつくか、さっきの医科学的なもの、温泉と農業。温泉を使って、今だったらSDGsを使って、自給自足を使って、住民がそれを活用する。それから、商品開発ってのも温泉でできますし、それからがんも言ったけど、よく問い合わせがあるのが、アトピーは治らないかと、全国にお湯を何ヶ所か送って、実際米子とか鳥取アトピーの人のところに、配達したりしてるんですけど、人それぞれなんですけど、米子の方は本当に1年間ぐらいで治った。それからアトピーの根拠エビデンスが欲しくて、僕個人としてのうちと鳥大と研究して、前も言ったかな。アトピーのマウス、30匹ぐらいかな。それから普通のマウス30匹ぐらい、これを毎週お湯を持って行って研究したところでは、皮膚病改善とアトピー性皮膚炎の改善効果がありますっていうのが出ました。やっぱそういう特化したものをもっとPRすればアトピーなんか全国にすごくたくさんもいらっしゃるし、それからアトピーで問題は、鳥大の先生が言われたのは、動物にアトピーが多いらしくて犬とか、三朝温泉を使ってそういうのをすると今の時代だったらペットってのは、皆さんが家族と同じぐらいだと思ってられるんで、それ特化したものをまずアピールすると。そこから始めるのが一番いいと思うんです。そうすると住民も少しずつ、身近なものに捉えてもらえるかな、70ヶ所くらい視察行かしてもらって、三朝に足りないのは銭湯なんです。一般の人が気軽に町民が気軽に入れる温泉。今だったら旅館とかありますけど、やっぱり普通は、旅館の玄関入って風呂はやっぱり抵抗があるということで、やっぱり銭湯を増やすべき。さっきも言ったように各部落で銭湯くらい作れるんですけど、作ろうと思えば。だけどやらない。なんかこの町、なぜかなっていつも思うんですけど。あんなもん簡単にできるんですけどね。費用もかかるんですけど、それは皆さんからお金もらえば、やっていけると思うんで、その辺をちょっともう少し、議論ばかりするんじゃなくて、何か実行して欲しいですよね。して欲しいというか、するということです。</p>
御船委員	<p>順番で、この辺まで来ると、アントニー君じゃないですけど、話すことがなくなってくる。いろんなお話が出てきたんですけど、とにかく三朝のラドン泉っていうのはすごくいいものですよと。それをどうやって生かしている人々に享受してもらえませんかというところだと思います。どのぐらいいいかっていうのは、白血病の人達が2週間に1度、2泊3日で1年間通われた方が完治されました。主治医の先生が薬を変えようということで、検査されたら、正常値に戻ってたっていう、椅子から飛び上がって「何やったんだ」って言ったら、「三朝温泉に行ってきただけです」っていう話をされたっていう、これはうちのお客さんの事例で、それから、30年間来られてるってお客様もあります。</p> <p>もう一つは、ヒーリングで、心の健康ということが言われましたけど、自分たちのライフワークの中のヒーリングとして、バカンスをどう過ごすかっていうので40日ニューヨークからご夫婦が毎年こられてます。そういうこともあります。大阪や東京の間、大都会、どこって言ったたらちょっと差し支えがあるので、大企業のOL、ビジ</p>

	<p>ネスマンが疲れてくると、定期的にはエスケープしてこられるとかね。完全なヒーリングなんです。心の病、疲れたよって。だからその人にとってのニーズってのはいろいろあるんですよ。そういったことの象徴的なのが、現代湯治で三朝町として一緒になって作ってますよね。岡山大学があって、岡崎さんが言われたけど、温泉病院があって。僕はこの温泉の旅館の人間が「治りますよ、効きますよ」て、これ絶対言っちゃいけないんですよ。これ薬事法とか医師法にかかりますから。真っ先に保健所がうちに目つけてるんでいつもその気づけてるんですけど、ホームページも隅から隅までチェック受けてます。表現も気をつけてますけど、実際に効果があるんです。</p> <p>岡山大学のデータで、エビデンスがあって80症例効果がありますよ、治療に役立ってますってことで、これはドイツのバーデンバーデンの場合、現場でも全部エビデンスが一緒なんです。ヨーロッパ・アメリカでは保険でそれが通用する、日本ではなかなか認可してくれないって、学会でも発表させてもらえないという事情があるわけですよ。その中で私たちがビジネスでやってる時には、「効きます、治ります」なんて口が裂けても言えないことなんですけど、どのぐらいかっていうのだけはちょっと皆さんに知ってもらおうという第一歩だと思って話しますが、がん治療ってことが盛んに言われますけど、どのぐらいすごいかっていうのは、いわゆるお越しになる前に必ず主治医の先生でマーカーチェック受けてもらうんです2泊3日なり1週間なり。帰られたら、なるべく直近にもう一度マーカーチェックしてもらおうと、必ずがんのレベルがグリーンと下がります。これはもう確かです。私の母親のレントゲン写真を見ても、ぐっと下がるんですよ。だから、それは実際にあるんですよ。</p> <p>それからリウマチです。リウマチもものすごく効果があって、完璧に直されました。「救急車呼びましょうか」ってお客さんが玄関で横になっちゃって帰らないというのがあって、そういった事例があるんですけど、私、そういったことってのはちょっとすごく特殊なんで、そういったことを取り扱うっていうことではないわけですよ。ですから僕はあの、どうしても赤ちゃんのおむつかぶれってなっちゃうんですけど、やろうと思えば、すぐにできちゃうってことですね。だから、その時に、健康福祉課の保健師さんの活動のときに例えば、赤ちゃんのおむつかぶれだけにとらわれていると、なかなかいかないかもしれないけど、合わせてお母さんにもアピールとかすれば、綺麗になるよって言うたら、継続するしね。それから介護の時でも、三朝ミストっていうのは、無機質無添加になって、一番最初に売れたのが、岡崎さんがいうアトピーと喘息の人から売れたんです。スーとかけるとか、寝たきりの介護のときに背中がぐじゃぐじゃになるわけですよ。拭くときにそれをスーとかけておけば、無添加無機質ですから、ぐじゃぐじゃがなくなってくるってのが実際にあるわけですよ。一番最初にそれを飛びついてくれたのがオーストラリアの看護師会の方が飛びついてくれたんです。でも、そこまで三朝温泉旅館組合はよう売り込んでないんですけど、注目されているものがすでに「三朝ミスト」ってあるわけです。だから、施設も足りてませんし、温泉が私たちの努力が駄目で、ちょっと温泉街が廃れてきてますけど、それを充実させるってことも、並行して、今すぐできることからしてもらって、合わせ技でできるってことがいっぱいありますから、一つ一つ整理をして、こんなことができるようなあんなことができるよっていうの、ぜひやって欲しいなと思うんです。うちの従業員、みんな綺麗になっております、家内を筆頭に。僕のずぼらな生活、健康維持させていただいております。ですから、もう少し、それを享受していただけるようなことをね、簡単などころからできるところからやっていきましょうよ。というぐらいしか今言えませんが、最初言われたように、プラス温泉があるってことですから、それをうまく生かすということだと思います。</p>
<p>アントニー 委員</p>	<p>このテーマについては、私の答えは簡単であって、健康という分野はあまり得意ではない人間ですけども、このワーキンググループで思ったのは、前回もそれを思ってたんですけど、やっぱり長年にわたって、研究された岡崎さんが言ってることに、まず参考として進めてたらいいかないと個人的に思いました。</p> <p>リハビリ、メンタルとフィジカル、両方にいいということだと、アトピーにもいいというようなエビデンスというか、研究の成果があったようなので、長い間研究され</p>

	<p>て、それがわかってるので、その方向に進めたらどうかなと思ったりしてます。あと、御船さんが言ったそのお客さんが毎年来て、今の言葉で言うと、リトリートですね。日常生活からちょっと出て、リトリートして、心と体がちょっと整えてというのが、今どきの言葉だとそれだと思いますけど、その方も、何かできることがあるのかなと思ったりしてます。</p>
藤井課長	<p>ちょっと取り止めもなくしゃべってしまうかもしれませんが、できることからというお話がありましたんで、今できることって何かなって思ったときにいろいろ皆さんからの意見の中でも、こういう効果があったとか、こういうお客様がおられたっていうようなお話はあるんですけど、結局施設側、受け入れ側の方が、そういうのはちょっとあれかもしれないんですけど、体験されてる方がよかったっていうようなことを書く場所は多分、今まであんまりないのかなあと。いわゆる口コミっていうか、それを書く場所っちゃうのは、多分そんな僕もあんまり見てないので、そういう上げてもらう仕組みがあると、アトピーに効いた、喘息に効いた、それ以外に効いたっていうことがわかってもらえる部分が、体験のことが知ってもらえるのかなと。それからエビデンスの話もあったんですけど、アトピーのこと含めて、多分今の最新の部分の岡山大学さんの研究っていうのを、どこまでどうなったかっていう部分をちゃんと難しい言葉ではなくて、少し噛み砕いていただいて、お話をしていただく機会があると、今の最新の情報というのがわかるのかなと思いました。それから温泉と健康づくりを連携というお話でいうと、皆さん方のご意見の中で温泉は健康づくりの一つの手法であって、これまでの健康づくりは、それと温泉をかけ合わせてもっと良くするというお話なのかなと。最後、湯道というお話があったと思うんですけど、結局、三朝温泉の一番、よその温泉と違うところは温泉の入浴だけじゃなくて、飲泉があったり熱気浴があったり、鉱泥湿布があったり、ラジウムエの制度があったりっていうような、そういう特別なことをやってるっていうのが、入浴作法に加えた三朝温泉の湯道なのかなと思いました。何はともあれ連携させるためには、その方が楽しくないと長続きはしないのかなというのをちょっと率直に思ったところです。</p>
御船委員	<p>進めていただくときにですね、どうしても注意していただきたいことがあるんですよ。例えば「すごくよかった」って、「こういうことだった」ってポンと出すと、逆にですね、モンスターがどんどん来るんですよ、マニアックな方が。「治るんですよね？」って、これが一番厄介でして。例えば、人に優しいってのはいいことなんですけど、ハラル、グルテンフリー、いろんなことが出てくるんですよ。本当にすごいリクエストをされるお客さんもいるんです。そして、「それができないんですか？」って聞かれることもある。「普段はどうやってお過ごしになってるんですか？」っていうと黙っちゃうんです。そういう間違っただマニアックな人がいるんですよ。だから、そういうこともちゃんと理解した上で、あくまでも町民向けですが、うまく温泉地の活性化にも続けていくんですかっていう時には、デメリットのとんでもないモンスターがいるってことを注意しながら、ネットはうまく利用された方がいいかなと思います。</p>
青木座長	<p>頭が重たくなっておりますけれども、山内さんも言われました、健康って何だろうっていう、言葉が非常に強いです。というのが、健康づくりって言ってしまうと、人それぞれだったり、先ほど、例えばパソコンの首の話がありましたけど、これは人によっては健康じゃないということになりますし、これを健康にするのも健康の対策でしょっていうことで、そういう感覚で見ると、柱はですね、逆に少し大きく構えて入っていくと、そこの中には石がたくさん落ちてて、それをちょっと整理しながら、皆さんの今のお話を整理しながら、御船さんの注意も意識に置きながらやっていくと、少しずつですが、双方向の効果が繋がっていく場面が出てくるのではないかなというふうに聞きました。確かに、体の状態とか治るとか治らないとか、今度維持するというかそういうことも全部言葉で入ってきますので、そういうことを的確にこれを全部整理するのは難しいんだろうなという気はしますけれども、とらえ方としてそういうものの全部大きく入っていくと、中で、集めればいいという感覚で物事ここを整理すると</p>

	<p>少しわかりやすくなるのかなというふうに思っています。保健師も来てますけれども、逆に、それだけ難しい健康という言葉であるなら、健康づくりを1回整理をしてみ、役場もこれをブラッシュアップすると、いろんな健康づくりがあるということが温泉との出会いも含めてあるということを今度始めていくという機会にできたらなというふうには思って、ここを構成しようかなというふうに思っていますので、今の皆さんのご意見を使わせていただきたい、参考にいたします。よろしくお願いします。</p> <p>それでは時間も来ますけど、次15、16ページで、また同じようなところがあります、『入浴等施設を整備する』ということについて、これははっきりハードでございしますので、前回は出てはおりますけれども、ここをちょっと聞いてみたいと思います。話は出ていましたけど、たまわりの湯の撤退といえますか、そういったことも聞こえてきておりますので、町民の方からは、いわゆる銭湯とという言葉がありましたけど、なかなかない状態というか、そういうことが待ち構えておりますので、そういったものを望む声がある一方で、今回の温泉健康まちづくりという中で施設整備となった時には、いっぺんにいってしまうことが難しいというようなイメージも持っておりますし、それはそれで考えないけんことがありますし、銭湯は銭湯でというのもあると思うんですが、ここで、入浴施設に求めるものということで、一言ずつ、ご意見をいただければと思います。</p>
<p>糸原委員</p>	<p>毎回トップで、自分の言ってることがどうなんだろうと思いつつ、あと皆さんのご意見を聞かせていただいております。ちょっと皆さんの今までのお話の事に対して、ネガティブに聞こえるかもしれませんが、ちょっとポジティブにとらえて聞いていただくとありがたいなと思います。というのが鉱泥湿布とかですね、温泉プールっていうのは、やはり患者さんからも、声はあってさせていただいているところですし、もっとPRしたらとかですね、今までのご意見もご最もなところなんですが、やっぱり医療の中でそれをやっていくっていうのが、逆に難しいというか限界がすごくあってですね、例えば鉱泥湿布に関して、基本的にリハビリの一環なので、医師のオーダーなんです。だから医師が必要だと認めた方に限りしていただける。プールも同様です。リハビリもあれもこれもしたいと言っても、できる数が限られていたりとか、外来の患者さんはここまでですよとかっていう制限がつく。となってくると、温泉病院ではなくって、鉱泥湿布とか、温水プールとかすーは一温泉とか、そういうものをまとめて、まとめて一つのものとしてしまい、それをうまくPRができると、今の病院とかにあって、病院の中にあるからっていうところで安心ということもあるのかもしれませんが、もっと使い道が広がってくるのかなと。例えば、体験事業で鉱泥湿布ってのは3年間止まっているんですね。ご期待の声もすごくたくさんあるのもわかっていますが、院内にこのコロナでなかなか入っていただけない中で、どっかに泊まられて、じゃあ1週間来るから毎日さしてくれっていうことがあっても、なかなかそれも難しい。これが、別施設であつたら、何回でもいいですよ、今日でもいいですよっていう形で、やっぱりその方が有効活用なのかもしれないなと思うと、鉱泥湿布も温泉プールも当院にあるよりも、町としてというか、こういうところから一体化していくというのも、いいのかなとこういったものが先ほどの、こういった良くなったよとか、効果がつて言われるところと結びついて、行ってみよう、来てみたいっていうものが、できていくと、相乗効果になっていくのかなというところで、ちょっと考えました。</p>
<p>山根委員</p>	<p>基本、糸原部長が言われたのと同じスタンスではありますが、どうしても医療の縛りつてのがあって、先ほどからエールを送っていただいておりますけども、なかなかこれだけ温泉が長く愛されている、親しまれているということは、もちろん効果があつてずっと今に至ってるんだということを承知してはいるところなんですけど、療機関にいれば、それに診療報酬という、そこに常に左右される。そこにつかないものに関しては、なかなかこうしっかり広げていけないというのもジレンマとして感じるところではありますので、先ほど糸原が言ったように温泉プールももちろんあつたにこしたことはないですし、すごくうちの治療の武器だと思っておりますけど</p>

	<p>ども、それをもっと自由に使いたいって声もあるのも一方でありますので、そういうことを考えたりすると鉱泥湿布を含めて、そういうものが町として、1ヶ所にあそこに行けば、もちろん払うもの払わなきゃいけないかもしれませんが、使えるんだって言った方が町民にとっては有益だろうなというのは感じております。</p>
松田委員	<p>温泉の効能、先ほどどういうふうに発信していくか、下手すると批判がっていうところのお話を伺って、やっぱり健康食品とかのテレビコマーシャルには、必ず画面の隅っこに「個人の感想です」という言葉が入るわけでして。やっぱり自分自身が健康づくりのために、新たな施設、その温泉というものをどういうふうに考えて、活用するかということに尽きるだろうなと思います。その中で町民が、例えば一日のうちの半日とか、何時間か活用する。そのときに使いたいと思う施設であるために一つ必要なのは、ある程度の非日常性が楽しめる空間とかっていうのも大事なのかなと。リゾート風と言ってしまおうとまたちょっと違う部分はあるのかと思いますけども、言ってみれば運動施設ということでもなく、やっぱりいることが楽しくなるような、ただそれがあまり華美であったりとか、凝ったものである必要もないかとは思いますが、そういうある程度楽しめる、いるだけで楽しめるような内装等とかっていうことも重要なのかなと思います。なおかつ、滞在される町外・県外の方も楽しめるようなものという、そういったことを言い出すときりがない部分もあると思いますが、楽しく過ごせる空間であればと思います。</p>
牧田委員	<p>入浴と施設を整備するという点では、個人的な考えですけども、私、岡大の1階にある飲泉室が大好きなんです。今はもう入れませんが、大きな建物の部屋の中に飲泉が飲めるように噴水のようにあって、そこに自由に出入りする空間があるんですよ。そこがすごく大好きで、その部屋に入るだけでもその効果があるよっていうことは聞いております。お庭も隣にあるんですよ。そのお庭も、小さいといえば小さいし、大きいと言えば大きいんですけども、そこをね、歩けるようになって遊歩道がついてると、訓練する場としてそこがあったということは聞いてますけど、とても好きなんです。すごくいいなと思って私はずっと思ってまして。そこだと、誰でも気軽に行ける、そしてプールがある。そして、お部屋がたくさんある。個別にも、休憩もできる。なんなら、特産品を売ることもできるみたいな、勝手に岡大の1階を使えばできるんじゃないかって、勝手に思っております。使えないもんなんでしょうかね。何かを建てるっていうのはすごくお金もかかるし、時間もかかるし、労力もかかりますけど、あるものを、期間限定に貸していただいて、若い方、町内の人が対象なんだろうけれども、そこに携わりたいと思う方を集めて、同じ方向を向いて、人も環境のうちなので、そういったところで力を合わせていけば、長期的な計画なんだろうけれども、ある程度の成功のある期間納めれば、ある程度、町民の注目度も上がるでしょうし、全国からの注目も集まるので、何かできたらいいなと勝手に思っています。</p>
田村委員	<p>岡大繋がりでいくと中村教授が、惑星の研究のあとは、全国の温泉成分を調べて、その有効成分を解明して、処方せんが書けるようにしたいっていうふうにテレビで仰ってましたんで、早くしてくださいって、こないだも言ったところなんですけど、まだ無理なんだろうけど、温泉と湯治が診療・医療として、認められるような動きをできたらみたいなことおっしゃっていたので、先のお話と一緒に岡大の敷地でそういうことができたなら画期的だと思うように聞き取りました。僕の子供の頃に、ラジウムガーデンに毎年、子供の日になるとラジウムガーデンに行って、親は多分なんか宴会をしてるし、子供は温泉に入ってわいわい遊んでるっていうイメージがあったので、そういった雰囲気があるのも一つは楽しいかなと思ったりはするんですけども、多目的駐車場が、残念ながらこないだ大雪の時にみんなが止めてましたけど、それ以外はなかなか利用が少ない、せっかくいいお湯が沸いているみたいだし、庭も国宝級の庭が台無しになってるのが残念でしょうがないので、ああいったところを活用してそういうにぎわいもあわせた温泉施設ができればいいなと思いながらいつも見えています。</p>
米田委員	<p>病院関係の件で、鉱泥湿布の話が出たんですけども、確か、午前と午後の部で人</p>

	<p>数制限があって旅館宿泊の方限定でっていうような、まず旅館に予約を入れていただいて、観光協会にFAXを送って、そこから温泉病院に問い合わせをして空きがあるかどうか、そこからの返答を待って、お客さんに再度空いてますっていうような連絡方法なので、お客さんに案内する時も結構時間がかかったりとかして、手間がかかるのかなというふうに思ってたところでして、皆さんおっしゃっていたのが別の場所に、そういった施設、鉱泥湿布じゃなくてもいいと思うんですけども、例えば砂の温泉みたいなのを作った施設と温泉等、別にそういったすーは一温泉だったりとか岩盤浴だったりオンドルであったりとかっていうのを併設して、その中でマルシェ、ファーマーズマーケット、地産地消のそういう農家の方が販売できる施設などを作って、そういったところに食事どころ、カフェ、お茶ができるような、そういったものを総合施設みたいなものを作って、町民の皆さん、外から来たお客さん県外の方、町外の方が来て、みんなが楽しめるような、何かワイワイガヤガヤができるような場所があったらいいのかなというふうに思っております。</p>
<p>山内委員</p>	<p>今、いろんな方がおっしゃいましたけども、温泉を活用して、いろんな体験ができたり、そういう体験ができる。体験ができて楽しめるような施設があるっていうのは、すごく理想的だと思います。そして、それに加えて、より町民の方がより気軽にもっとどんどんそういう施設を利用させていただくっていうことをしていただけるような環境を整えるってことも必要だと思います。今現在NPOみさき温泉はたまわりの湯を運営しておりますけども、あそこに行くと、やっぱりもっと町民の方にたくさん来ていただきたいんですが、車を停める場所がなくて、ちょっと離れたところにも、駐車場用意してるんですけども、やっぱり併設しないと。ちょっとお客さん来づらくなっているのを常にやっぱりスタッフも我々も感じております。そういった部分でやっぱり、町民の方とか、もっと人に来ていただくっていうことを考えると、やっぱり車、駐車場と併設しているということをまず考えないといけないようになって思っております。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>さっき言われた温泉病院の件なんですけど、以前にデザインしたのは、医科学研究所とは別個の施設を作ろうとしたら、そこに温泉を活用して、それをどういうふうに健康に持っていか、リハビリに持ってくかかっていうのをしたんですけど、民意では全体が賛成したんですけど、最終的には、町とのかけ合いで町はしないってなったもんで宙に浮いちゃったんですけど、やっぱりそういうところがあれば、観光にも役立つし、地元の人たちにも役立つ、それからさっき健康の部分、何が健康かって自分もわかんないんですけど、要はメンタル部分で安心するのは、健康診断とか今やってるがん診断で異常がなかったら、メンタル部分は安心するわけです。個人的に言うと、例えば健康診断はいいんだけど、問題は1人ずつのカルテで自分がどこが強く、どこが弱いかかってのはそういう医科学研究所で1人ずつ診断してもらえて、僕が個人でいうと30年間ぐらい小学校から社会人まで野球をやって、もうこれは古い人間だから、昔のトレーニングって腹筋何回、腕立て何回って何セットするって、訳のわからん、みんながおんなじことをやって、不思議だった。自分では野球でどこを鍛えたらいいのかっていう、そういう指導してもらえるところがなかった。だからそういう部分であっても、ここでそういう施設があれば、町民の健康維持ができるはずなんです。</p> <p>それと、さっきも言ったんだけど、やっぱり実行ができないんですよ、三朝町って。僕はそういう委員会とかデザイン会議、それからまちづくり委員会も何回もやって、結局はデザイン出すんですけど、実行が伴わないです、いつも。だからさっき言ったように、例えばエンタメ部分だったらスーパー銭湯一つ作れば、ほとんど、町民は楽しめるんで、スーパー銭湯なんて全国どこでもあって、なんで三朝町はないのかが不思議なぐらいで、スーパー銭湯1つつくれば、ほとんど解決します、エンタメ部分は。銭湯も言ったように、他の町村から僕ら会議に出るといつも言われるのは、自慢することがないんだけど他の町村から言われるのは「三朝温泉があるじゃないですか」っていうけど、「いや温泉あっても何も利用してないですよ」っていつも言うんだ</p>

	<p>けど、さっき言ったように部落に極端な言い方、銭湯1つぐらい作ったってそんなのペイできるはずなんです。費用対効果で、だから町民がもっと温泉に触れ合える施設をつくればいいんですよ。やるかやらんかの問題なんです、これって。いつも言うけど、結局は話だけで終わってしまう。そこらをもうちよっと実行をやってみるといことをしないのがすごく不思議でしょうがないですけどね。やっぱり今までデザインしたものの幾らでも出せるんですけど、何故か否定というか、実行されないんで、その辺がちょっと、町に伺いたいぐらいですけど。なぜ実行しないのかっていうのは。</p>
<p>御船委員</p>	<p>流れの中でちょっと、しゃべりにくくなっちゃう。いわば象徴的な施設をついていう話が最終的にあって、やるかやらないかってことになってるんですけど、昔、昭和の初期に三朝村っていうのが、今のすーは一温泉のいわゆる集会、温泉施設を作ったんですね。いわゆるクアハウスです。それが、岡山医療センターさんが来られたときに渡した形で、このたび地震で壊れて、また、返してもらったという形になって、NP Oさんの方で運営してもらっている。あれが三朝温泉の一番最初、初代のクアハウスなんですよね。そのクアハウスをすることによって、今言われた象徴的な各施設ができるんじゃないかなと思う。その時には、いろんな事例を入れて、バドガシュタインだとか、バーデンバーデンだとか、いろんなところの最先端の最新のところを入れて三朝に合った形のいいものを作っていただくとありがたいかなと。それから、それができたからといって、温泉病院さんには、温泉治療の施設、もうしんどいからやめたってことがないようにしていただきたいなど。</p> <p>実は、全国でのいろんな評価の中に岡山大学の三朝医療センターがあって、温泉病院があって、その医学的な裏付けがあって、三朝温泉がいいんだよねって思ってる人ってのはかなりいらっしゃいますので、象徴的にやっていただきたいなど。困ったら、モンスターが荒れて困ったら、もう旅館は旅館ですから、そこから先は病院に行ってください、というところはぜひ残していただきたいなど。でもこれ現実話でして、最終的にはじゃあどうしますかって言ったら、観光地にもプラスになるし町民もうまく利用できるという、最新のいろんな利用のできるクアハウスをこの度、思い切って作ってみられてはどうでしょうかというところなんです。規模がそんなに大きくなくたっていいんですよ。岡大を利用されてもいいし、駐車場を利用していいし、新たに土地を取得されてもいいですし、どうぞよろしくをお願いします。</p>
<p>アントニー委員</p>	<p>今回のワーキンググループの成果を、実現してやらないといけない雰囲気になったので、ぜひ実行しましょう、実行しなければ、私が20年30年後、20年前にね、私答えてたんですけどって、私の番が来ます。冗談ですけども。やっぱり、このワーキンググループで感じたところ、言うまでもなくですけど、施設が、入浴施設が必要になってくるっていう。皆さんの望みのように聞こえました。過去にもね、いろんな施設があったようですけど、今回は長持ちするようなものだったらいいなと思います。施設を作るにあたって多分、このワーキンググループの中でその雰囲気をちょっと感じたところですけど、やっぱりいろんな意見を聞いていろんな人、喜ばせようというような、気持ちがちよっと現れてきたので、全員喜ばせることはできないので、どこかで、町として、いろんな意見を聞いた中で、これがしたいということがあって、勇気を持って実行に移るっていうのをやりますという、どこかの段階で必要になってくるかなと思います。</p> <p>実行した、完成しました。よかったと思う人と、駄目だったと思う人がどうしても現れるので、それは仕方ないところだと思いますし、覚悟をしてやらないといけないかなと考えてます。施設のこと自体で、私の個人的な意見は、お風呂だけじゃなくてプラスアルファがあればいいなど、以前も言ったんですが、そのプラスアルファが何かって、多分これからいろんな人がいる。これがあればいいのか、それがあればいいのか。例えば町民向けの施設にするんだったら、町民全員に聞けばいいかなと思って。何が欲しいか、具体的に、6,000人弱の意見を聞いたら、いいデータが出てくるんじゃないかなと思います。答えを出さなかった人は、後で文句は言えないとい</p>

	<p>うことがわかるので、いいのかなと思います。</p> <p>最後に、観光協会の立場としての話ですけども、糸原さんが言ったように、鉱泥湿布は、病院では医療行為で、観光協会とペアを組んで体験型の鉱泥湿布もしてたんですが、再開がなかなかできず、コロナの影響で、もう準備はもうできてるんですけど、なかなか難しいところがあるので、この新しい施設で、そのプラスアルファの中に例えば、鉱泥湿布だったら、観光協会としていいことだなと思ってますし、お金になるものでもあるので、いいんじゃないかなと思いますし、やっぱり御船さんが言ったように、医療だったら、温泉病院で入口として、気軽に行けるところは、この新しい施設でできたらいいなと思います。</p>
<p>藤井課長</p>	<p>行政からの立場でお話をさせていただくと、ご意見の中にあつたこと、それからこの計画にあつたことをこれから計画を立てることをすべて100%できない部分もあるかもしれないです。ただ、どこまで、大切なことを拾っていけるのかっていうのが、行政側の役割なのかなと。アントニー委員も言いましたけど、結果、役場のやる気度が試されてるんじゃないですかっていう話になっちゃうのかなと思ったんです。僕もこっち側という話で忘れてはならないのは、入浴施設等を整備するということがあくまでゴールではないと。そもそもの健康まちづくり事業ということなのでもっと行政側の方、計画を立てる側の方は、その先を見据えたものでないと、ちょっといけないよね、っていうのを改めてお話を聞きながら思ったところです。施設ができれば完成だっという感じで終わっちゃいそうなことになりかねないので、そこを忘れないような計画の立て方をせんといいんのかなと思ったところです。</p>
<p>青木座長</p>	<p>その通りでございますっていうことなんですけども、今藤井課長がまとめてくれましたけども、そういう気持ちであります。行政がなぜやらなかったのか、やれなかったということもあるんだろうなと思っておりますが、具体的にその理由を岡崎さんが言われたことに対しては、答えるものを持って持ち合わせてはおりませんけれども、確かに、他のところにできた時に入浴施設を作ったわけでもないですし、そういうことは、やってきてないというのが、うちの現状でございます。</p> <p>いろいろございますがシンボリックな施設、新しい時代を感じさせるようなイメージの施設という機能というのがいるのかなというふうには思っておりますので、しっかり受けとめて組み立てをまたしていきたいというふうに思っております。長い間、お話をしていただきましてありがとうございます。9時ということでございますので、この辺で意見交換を終了させていただきたいと思いますが、事務局にお返しする前に一言申し添えをさせていただきます。ワーキンググループの会議は、当初申し上げておりました通り3回ということで、今日いただいたものをさらにまとめていきたいというふうに思っております。この後ですね、これがどうなっていくのかというのを少しお話をさせていただきます。今度は、各団体でありますとか、有識者と言っておりますけれども、そういった方で検討委員会を立ち上げまして、今までやってきた構想の案ができてますが、これに今日のお話も加えまして、さらに検討したものをその検討委員会で基本構想案を示して、それを構想ということで次の基本計画ー基本設計ー実施設計という流れの中で組み立てていこうとしております。</p> <p>おそらくという言い方はいけません、来年にはできているというものではございませんので、動き出すまでに数年ぐらいかかるかなというふうに思っているプロジェクトでございますが、地道にやっっていこうと思っております。それで、皆さんにお願いといいますか、話しておきます。せっかくこうやって2回にわたって長時間お話をさせていただいておりますし、最初のこういったものというのは非常に思いも我々も強いものがありますので、ぜひこの後も、定期的にその進行具合を情報として皆さんにはお届けをしようかなと、内容を今は公にするものでございますので、特にはばかるものでもございませんのでお伝えをし、それについて、ご意見も賜りたいというふうに思っております。皆さんの気持ちを、続けてずっと我々が意識していくということもございますし、繋がっていくことによって、また次の意見ももらえるということで、集めてこういう会は開きませんが、まとめて情報を共有しながら、「あの</p>

	<p>時考えたことはどうなっただいや？」ということに答えていきたいというふうに思っておりますので、ぜひその点をご協力をいただくということで、ご了解をいただきながら、これからまたご協力をいただきたいというふうに思っております。至らぬ進行役で大変ご迷惑をかけましたけれども、引き続き、このプロジェクト、よろしく願いしたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
--	---

5 その他(5 閉会)

<p>村上課長</p>	<p>皆様、多岐に渡る貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。本日いただいたご意見を構想案に組み込んで、座長申しましたように、検討委員会で諮って成案にしたいというふうに考えております。本日、まだ言い忘れたってということがございましたらば、意見書をつけておりますので、検討委員会までに、2月10日締め切りというふうに書かせてもらってますけれども、お寄せいただければ、それも併せて参考にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、長時間に渡りました、遅くなりましたが、以上をもちまして、第3回のワーキンググループ会議を閉会としたいと思います。本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。</p>
--------------------	--